

近世民家普請と資源保全

中村 琢巳 (竹中大工道具館研究員) 著

A5判上製函入 本文三一六頁 図版一六三点

本体価格一〇、〇〇〇円+税

ISBN 978-4-8055-0730-8 C3052



歴史のなかの日本建築の姿にこそ、資源循環型と呼ぶにふさわしい、限りある資源を有効利用してきた姿を見出すことができるのではないか――。

建築を「新しく建てる」場面に着目してきた従来の建築史学とは異なり、木造建築を「使い続けること」に着目し、林業史料や日記を元に、民家のメンテナンスや古家・古材のリサイクルの実態を明らかにすることで、当時の木造建築の、長く、多様に生き続けた姿を浮き彫りにする。

本書は、江戸時代後期から明治期に至る「一九世紀」における民家を対象とし、その生涯が辿る様々な局面に着目することで、古い建物を廃棄することなく使い続けていた建築活動を把握しようとするものである。なぜ一九世紀という時代を設定したのか。その理由は資源利用のあり方から眺めたとき、伝統的な建築行為が衰退した転換点は江戸時代から明治ではなく、一九世紀から二〇世紀へ移り変わる時期にあらわれると考えているからだ。逆に、本書で示す資源保全型の建築のあり方の成立が、一八世紀から一九世紀へとという時代にあらわれるという着想とも関わる。いわば、資源保全からみた民家史研究である。建築史と資源保全を結びつけるために、民家に対して時間軸を取り入れて分析し、生涯における多様な局面をできるかぎり等価に把握する。つまり、更地への建設行為や建替工事などの特徴的な局面に限らず、日常メンテナンスに代表される定常的な建築行為にも目を向けていく。
(本書「序章」より)

目次

序章 資源保全からみた民家史研究

- 一 モノを使い続けた日本建築
- 二 本書の視角
- 三 先行研究と本書の構成
- 四 方法論上の特色

第一章 飛騨国の民家普請における

「家作木」の規制

- はじめに
- 一 家作規制の制度的な変遷
- 二 規制の運用実態
- 三 申請・交付された家作木の本数
- おわりに

第二章 普請語彙にみる民家のライフサイクル

- はじめに
- 一 普請願書の残存状況
- 二 言葉が示す建築行為の分類
- 三 民家のライフサイクルにみられた特徴

第三章 番所普請の木取仕様帳

- はじめに
- 一 番所の概要
- 二 木取仕様帳の内容
- 三 建築寿命の分析方法
- 四 工事類型ごとの建築年齢と木材量
- おわりに

第四章 古家と古材の再利用

- はじめに
- 一 古家・古材が再利用された場面
- 二 古材の発生要因
- 三 火災と古材利用の関係
- 四 古家・古材の売買と地域的状况
- おわりに

第五章 普請に備えた「囲木」

- はじめに
- 一 「囲木」による民家普請
- 二 天保年間の「桧角御改」
- 三 「差上木」の提供
- おわりに

第六章 江戸近郊における民家の耐久性獲得

- はじめに
- 一 「新規家作」と「建替」の動向
- 二 一九世紀中期にみる「取繕」の定着
- 三 天保四年における世田谷領の民家調査
- おわりに

第七章 「潰家」の再建と「分散」

- はじめに
- 一 居住者交代による「建置」
- 二 民家の「取崩」から「建替」
- 三 「分散」にみる古材の再利用

第八章 名主日記にみる民家の維持

- はじめに
- 一 富澤家と日記について
- 二 出入り職人の推移と普請の履歴
- 三 多彩な諸職の仕事内容
- 四 メンテナンスの内容と頻度
- おわりに

終章 耐久性を備えた町並みの成立

- 一 一九世紀における建築行為の特徴
- 二 民家の建替が盛んな時期の存在
- 三 群として耐久性を獲得

資料編 飛騨地方の民家絵図集

主要参考文献 / 既発表一覧 / あとがき

著者略歴

中村 琢巳 (なかむら・たくみ)

1977年東京に生まれる。2007年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了、博士(工学)。日本学術振興会特別研究員(PD)、立命館大学ポストドクトラルフェローを経て、現在、公益財団法人竹中大工道具館研究員。主要著書に『入門 日本の名建築』(共著、洋泉社、2013)、『新体系日本史 14 生活文化史』(共著、山川出版社、2014)、『高山市史 建造物編』(共著、高山市教育委員会、2014)。調査報告書に『赤岩 伝統的建造物群保存対策調査報告書』(2005)、『港区の歴史的建造物』(2006)、『三田寺町の江戸建築』(2009)、『祐天寺本堂の免震化改修工事における建築史調査』(2011)ほか。

関連書籍

近世在方集住大工の研究

高橋恒夫 著 本体価格 48,000 円＋税
B5判上製函入 本文 644 頁 挿図 653 点
ISBN 978-4-8055-0617-2 C3052 2010年1月刊

近世寺社境内とその建築

光井 渉 著 本体価格 12,000 円＋税
A5判上製函入 本文 416 頁 挿図 77 点
ISBN 978-4-8055-0403-1 C3052 2001年11月刊